

同和問題（道徳）学習指導案

平成3年10月17日（木）第5校時

3年A組男子19名女子18名計37名

指導者 佐野富子

1 主 題 ともに進もう

資料：A子の場合

2 主題設定の理由

昨年より部落問題学習を学級という狭い枠をこえ、学年全体で取り組んでいく中で、生徒たちは互いに尊重していくことのすばらしさを学んだ。そして、この学習は、人間として本当に語り合える仲間、議論しあえる仲間をつくることであるとともに、自分自身の醜い差別心を洗い、差別に立ち向かおうとする生き方をつかむ闘いでもあった。

さて、本学級は、表面的には清掃や奉仕活動など協力的で仲良くなごやかな集団であるため、何ら問題がないように見える。しかし、目の前に控えた進路のこと、社会にある不合理な差別、友人、家族のことなどで様々な不安や悩みを抱えている生徒もいる。そんな中、A子がこんな思いを書いてきた。「私は、誰に教えられたわけでもないのに、部落に生まれたことを恥ずかしいことだと思っています。学習会の通知も友だちが見ても中身なんてわからないのに、机の中にすぐに押し込んでしまいます。」A子は、昨年より引き続き担任している生徒である。素直で快活なため、私は、A子の心の奥にひそむ差別の重さが見えていなかった。一学期、丸岡忠雄さんの講演記録「同和教育への希い」の学習を通して、A子そしてクラスの生徒たちは、自分のおかれた苛酷な社会的立場から逃げることなく自らを解放しようとした丸岡さんの生き方に触れ、仲間の支えが丸岡さんを変えていくエネルギーとなったことに共感した。そして、自分たちは人間としてどのように生きていったらいいのかを追求していった。授業でのB男の発言がみんなの心を揺さぶる。「ぼくは、学習会に行っています。このクラスだから言えたんです。ぼくたちは、信頼しあえる仲間になろうとしています。だから、学習会の通知もみんなの前で渡してほしい。」そして、C子が応える。「友だちの苦しい思いを聞いて、それに応えられる人間かどうか自信がない。そんな自分が情けなくてたまらない。」丸岡さん、そして友の心の叫びを聞き、A子が徐々にかわりはじめた。学習会に参加し、「私にとって部落出身というのは大きな大きな峠です。登りきれないかもしれない。途中で休んでしまうかもしれない。でも、私は負けない。峠を登りきって、胸はって自分のふるさとを言いたい。」と書いている。生徒たちは精一杯生きている。そんな生徒たちのより人間らしく生きようとする願いに一人の人間として応えていきたい。

今、中学三年生の半分が過ぎ、いよいよ進路決定の重要な資料となるテストが24日からはじまる。生徒の心に重くのしかかってくるのは、やはり進路のことである。本学級の生徒37名の進路については、現時点で全員が高校進学を希望している。よく、「進路保障は、同和教育の総和である。」といわれる。一人一人の能力と適性と希望との接点を求め、進路指導していくことが、同和教育の進路保障であると思う。進路選択という身近で切実な問題の中に、今もなお厳しく現存する差別の実態を学び、不合理と矛盾に気づかせる必要がある。

本資料では、家計のために進学を断念しなければならなかったA子が、同和地区出身ということで「I社」で不採用になったり、希望に燃えて就職した「O社」でも差別を受けることになる。このようなA子が受けた部落差別の実態を知るとともに、A子がいかに苦しみ、克服し、どう変わっていったかを学ばせたい。そして、現存する部落差別を見抜かせ、差別解消に向かって力強く生きようとする態度を育てたい。また、現在の自分を見つめ、自分の進路を真剣に模索し、さらに仲間の進路に思いをよせるという人間的共感を強め、連帯して差別を打ち破っていく行動力をみにつけさせたいと願い本主題を設定した。

3 ね ら い

現実にある就職時や職場での差別を認識し、これからどのように対処し、解決すればよいかを考えさせる。また、進路についての意識を高めるとともに、支え合うことの大切さに気づかせ、人間のやさしさや心の豊かさを大切にし、人権が尊重されるよりよい社会の実現を目指す態度を育成する。

4 視 点 人権と差別

5 指導計画

(1) 常時指導

あゆみ・一分間スピーチを通して、自分の生活を見つめる機会をもたせている。

(2) 関連的指導 (学活)「わたしたちの進む道」……………2時間

進路決定は一生にかかわる大事である。今までの進路についての学習成果を基に将来において悔いの無いよう真剣に考えさせるとともに自分の立場、諸条件をみつめ総合的な見方で進路決定ができるようにさせる。

(3) 核心的指導

「A子の場合」……………3時間(本時 2/3)

(4) 発展としての関連指導

(特活)「すばらしい生き方に学ぶ」……………1時間

人間としてすばらしい生き方とはどんな生き方なのかを考え、家庭同和教育の

リーダーになる実践力を育てる。

(5) 常時指導(発展)

何でも語り合い、支え合う仲間意識を高める。

6 本時の指導

(1) 目 標

部落差別がA子をどのように苦しめたか、またそれをいかに克服し、A子がどう変わっていったかを学び、同和問題を自分自身の問題としてとらえ、差別を解消しようとする態度と実践力を養う。

(2) 展 開

学 習 活 動	期 待 す る 生 徒 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点
1 「A子の場合」を 読んでの感想を発表する。	○この資料を読みどんなことを感じたか。 ・A子が苦しみに負けずそれをバネにして差別と闘う姿に感動した。 ・周囲の事情を考え働きながら学校に行くA子に自分にはない強さを感じた。	・問題点、感動した所を自由に話し合わせることに より、就職差別の不合理的 や矛盾に気づかせる。
2 A子がI社を不採用 になったことについて考える。	○I社を不採用になった時のA子の気持ちを考える。 ・部落出身という理由で差別を受け悔しい気持ちで一杯 ・怒りがこみ上げてき、このあとどう進路を考えていったらいいのか不安な気持ち ○差別的なことをする会社に対して自分たちはなにができるか。 ・けんかではなく、何回も話し合いの機会を持ち何が差別なのかをわからせる。	・A子の苦しみ悲しみを自分のものとしてうけとめ 不当な差別に憤りを持たせる。 ・会社の違反行為を摘発したら求人が減るとか自分が我慢すればその場がまるくおさまるなどの考えは、結局は社会にある差別を容認することであり

	・間違っただけをみのがしていくのではなく、たとえこの後その会社から求人がなくなっても差別体質を追求していく抵抗の精神を持つ。 ・たとえ一人になっても差別する側にはつかないという強い心を持つ。	本当の意味での民主主義社会の成立を阻止しているのだということをわからせる。
3 A子が職場で受けた差別について考える。	○「A子さんは顔もきれいだし仕事もできるけどあっちの子でしょう」という言葉の奥に潜む気持ちを考える。 ・A子を妬み自分より上なので蹴落としたと思う気持ち ・部落に対する偏見差別心が言葉となってあらわれた。 ・部落の人は自分達より下だと思ふ気持ちが根底にあり負けたくやしさが言葉の凶器となって現れた。 ○「私は、部落出身です。」とA子に言わせたものは何か。 ・差別に負けたくない、真正面から向き合って生きたい。 ・女工員さんに、会社のみんなに差別の悲しみ、苦しみ、部落の怒りを分かってもらいたい。 ・先生や周りの励ましと支えがあった。 ・差別している人間が間違っているのだという真実が分かっていた。 ○自分のおかれた苛酷な社会的立場から逃げることなく、周	・A子が受けた部落差別の実態を認識させ、差別する者のみにくい姿を捉えさせる。 ・差別を許さず、積極的に立ち向かうことが、部落差別解消につながることに気づかせるとともに、A子の前向きな生き方に共感させる。 ・差別に負けず、真実を貫く生き方が本当に人間ら

	囲をかえていったA子の生き方をどう思うか。 ・差別から逃げることなく、勇気をもって立ち上がったA子の強さを自分ももちたい。 ・逃げる生き方が楽なのに、訴えたA子は勇気がある。 ・A子のように自分をごまかさず真実に生きた本当の人間らしい生き方をしたい。	しい生き方であることを考えさせるとともに、たとえ一人になってもA子と共に差別に真正面から立ち向かっていく強い気持ちを持たせる。
4 この資料を勉強して、自分は同和問題にかかわってどのような生き方をするのかを考える	○この資料を勉強して自分はどうか生きるか。 ・今まで学習したことを無駄にしないためにも絶えず自分の心に差別の気持ちはないかみつめていきたい。 ・差別と真正面から向き合い逃げるのではなく、その間違いを訴えるていくことのできる人間になりたい。 ・同情や憐れみでなく人を尊敬する心を持ちたい。	・部落問題にかかわって、どのように生きるのかという自分自身の生き方を語らせる。 ・自分にとって同和問題の学習が何であるかを考えさせる。

